

第七次福井市総合計画審議会 専門部会 第1部会（第2回）

■日 時：平成27年7月24日（金）13:30～15:30

■場 所：福井市役所 第2別館2階22（B）会議室

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

司 会

ただ今より、福井市総合計画審議会第2回専門部会、本日は第1部会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところをご出席いただきましてありがとうございます。

まず最初に総合政策室長の山田より、一言ごあいさつ申し上げます。

2. 審議

基本目標1「みんなが快適に暮らすまち」について

【資料】・第七次福井市総合計画（案）

事務局（山田総合政策室長）

皆さん、こんにちは。本日はお忙しいところをお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。前回6月に専門部会を開催して、今日が2回目ということでございます。

1回目は皆さんから活発なご意見を頂きました。また下川部会長のおかげで会議をきちんと仕切っていただきまして、課題の整理でありますとか論点などははっきり出てきたのかなと思います。その中で部会長が言われていたようなキーワードの交通でありますとか空き家、それと地域資源の活用のあたりを今後どうしていくか。今日はその辺の議論も深めていただければと思っています。

それと全体的なスケジュールを言いますと、後ほどご案内はいたしますけれども、10月下旬に中間の審議会を開かせていただきます。今それぞれの部会がどういう方向に向かっているのかというようなお話をしていただけたらと思っています。部会ごとにいろいろ進め方とかも違いますので、1回中間で審議会を開かせていただいて、意見調整とか全体的なご議論も皆様方でしていただきたいなと思っていますので、よろしく願いいたします。本日はいろいろご議論いただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

司 会

それでは、早速ですが審議をお願いしたいと思います。以後の進行につきましては、下川部会長にお願いします。よろしくお願いします。

下川部会長

皆さん、こんにちは。久しぶりに皆さんとお会いして、皆さんの肌の色が小麦色になっておられて、それぞれご活躍されているんだなと思いました。それでは、前回に引き続き審議を進めさせていただきたいと思います。今日もご発言をされる前に1回だけで結構で

すので、お名前をよろしくお願ひいたします。

実は、前回皆さんからいろいろなお話を伺いまして、非常にありがたく、本当にいい話がたくさん出たなと思っています。前回の会議が終わった後、私はすぐ戻りましてこういう資料を作ったんです。ちょっとご覧いただきたいと思うんですが、この資料です。皆さんからいろいろとお考えをお示ししていただきまして、それをちょっとまとめ直させていただいたのと、インフラとかそこら辺のことを考えていく上で、これは欠かせないだろうなという、この会議では出ていない新しい視点なども盛り込みながら、こういう資料を作らせてもらいました。

今日は、これに基づきながら少しお話を進めさせていただきたいと思っています。

まずは、皆さんから交通とか空き家とか地域資源の活用という部分で、失礼ながら宿題を出させていただいていたと思います。それで、皆さんの方から交通とか空き家とか地域資源に関して、こういったことが今問題じゃないのか、課題じゃないのか、あるいは、こうなっていくといいねというお話がございましたらお願いしたいなと思います。

1人ずつ当てていってもいいんですが、どうでしょう。堀川さんの方から行きましようか。

堀川委員

来ましたね。

下川部会長

後の方が発言しやすくなっていくので、お願いします。

堀川委員

どうしますか。分けていきますか、交通と空き家と。一緒に言っちゃっていいですか。

下川部会長

一緒に言っても全然オーケーです。

堀川委員

まず交通のことで申し上げますと、福井の場合は公共交通機関は幾つかあります。その公共交通機関の中でそれをリンクさせて、例えば鉄道網を中心として、その鉄道の駅にフィーダーという形でバスの路線をつなげていくような形で、全域を網羅していくというような施策があります。そういったことを目標としているんですけども、なかなかそれが現実には利用者に浸透していないといえますか、利用者になかなか使ってもらえていないというような現状があるようです。その辺のことを深く話し合いができればいいなと思います。

それと空き家。空き家については、中山間地に空き家がたくさんあります。その空き家を目指して、都会の方から田舎暮らしがしたいんだというような若い方から家族の方まで、そういった思いのある方がおられるんですけども、そういった情報がなかなか流れないといえますか、発信ができていないので、せっかくの空き家が有効に使われていないという現状があります。

逆に、空き家として貸し出ししたいんだけど、実際そこはもうお住まいでないんですが、仏壇があるので貸せないというそういった現状もあるやに聞いてきました。本当であれば盆と正月しか帰らないので、家も朽ちていってしまうから住んでもらった方がよっぽどいいんだけど、そういった仏壇の問題とかがあって貸すのはちょっとねということがあるので、逆にその仏壇のことをクリアできれば、行政の方で何らかの手だてがあれ

ば、面白いものができるんじゃないかなと思いました。

それともう1つ。空き家ではありませんが、行政施設として使っていないものがある、それを有効に使うことも1つだなと思います。僕が今非常に興味を持っているのは、前回も大森さんがおっしゃっておられたと思うんですけども、美山の方で高齢者の方々が集まれるような場所があったらいいなというお話をされていました。

ちょうど美山に美山中学校の寮があったんです。今はもう全然使っていません。寮があった理由は、雪深くなったときに通えないので、そこに生徒さんが泊まり込んで、冬の間合宿のようなかたちで勉強していたという施設があって、その施設自体の建物は残っていますし、給食設備も残っていました。そういったものを有効に生かせないか。例えば民間がそれを改修して、市から借り上げて活用する。それでお年寄りの方々においでいただくような施設になったらいいんじゃないかということをやっと考えてみました。そんな感じで宿題をしました。

下川部会長

ありがとうございます。資源活用のお話をしていただきました。

それでは、高島さん。

高島委員

交通の部分は、これから人口が減って行って、公共交通機関でバスとか電車とかもあると思うんですけど、そういうのをたぶん運営していくことが難しくなっていくんじゃないか。けれども、中心部ではないところとかのお年寄りがどんどん増えてきているようなところでは、そういうバスとかがないと生活に支障が出る部分も大きいと思うので、そういうところももうちょっと何とかしてやっていったらいいのではないかなと思ったところではあります。

空き家は、空き家じゃないかもしれないですけど、ちょっと前にテレビで昔の木造の小学校を民間の人がピザ屋さんに改造して使って、そこがすごい人気が出てというのを見たので、そういうふうな感じで何か違うものに使って行って、そこに人が集まるようなかたちのことをできたらいいいのではないかなと思うんですけど、難しい部分もあるかなと思っています。

地域資源の部分では、地域資源ってどんなものかといったら歴史とか自然という話が出ていて、中心部で自然といったら足羽山とか川とかが大きい自然であるので、そういうのも県都デザインとかには書いてあって、そういう部分にもっと人が来てもらえるようなかたちを取れば、もっと観光で来た人がその自然を楽しんだりという部分でもできるのかなと思います。

下川部会長

ありがとうございます。櫻井さん。

櫻井委員

僕は越廼地区の地域おこし協力隊で活動させてもらっていて、それもあってほぼ越廼の話になってしまうかなと思うんですが、交通の面では道を真っすぐに、殿下の道とかをもっと真っすぐにしてほしいとか思ったりもします。

それとあともう1点。電車を海岸線に延ばすことができないのかなと思います。外から行きたいという方、外からも福井の海岸線を見に来たという方も必ずいるんですけども、三国までしか電車は通っていないので、海岸線を走れるような線路ができればかなと思いま

した。外の人でも来やすいし、地域の人でもそれは活用できるので。

あと、空き家というのは地域資源の活用とほぼ同じものになると思うんですけど、住める空き家があるとしてそこに住んでくださいとって、いきなりよそから人を連れてきて、さあ、住みなさいといわれても、なかなか一歩目というのは難しいと思うので、ゲストハウスではないですけども、1週間なり、1カ月なり、ロングステイができるような施設ができればと思います。例えば越廼は海の地域なので、夏の間だけそこで生活してみませんかとか、そういう短期間でも田舎暮らしが体験できるような施設ができれば、田舎暮らしに興味があるけど、いきなり住むのはハードルが高いなという人が体験できると思います。

あと空き家に関してもう1つあるんですけど。堀川さんもおっしゃったんですけど仏壇とか、家は空いているけれど今は貸せないなというのがあって、それは仕方がないんですけど、中には普通に貸してあげますよという家もあるので、まずそこを整理できれば一番いいかなと思います。そうしたら、外からちょっと住んでみたいんですという人に、ここを貸せますよとスムーズにいくと思うので。そういう流れがしっかり構築できればいいのかなと思います。それが地域資源の活用にもなるかなと思います。以上です。

下川部会長

ありがとうございます。大森さん、すみません。よろしく願いいたします。

大森委員

私も美山なんですけれども、もともと小さい地域、もっと小さい地域のことしかわかりませんので、そのことでよろしいでしょうか。

下川部会長

はい。

大森委員

実は、私のところは芦見という地域なんですけれども、2年前には63戸ほどありまして人口が171人ほどだったんですけども、現在が世帯数で57に減ってしましまして、人口も157人ということで、戸数にして6戸減ったし、人口にして14名減ってしまったんです。そういうところでございますけれども、空き家といいますか、2年前は63戸は人がおまして、住んでいないのが9戸あったんです。現在は15戸が住んでいないということで、2年間のうちに6戸空き家が増えたことになります。その内訳を見ますと、先ほどおっしゃったように2年なり3年間空き家になってというか、家というのは人が住んでいないと床が腐り始めたりして、今すぐには、なかなか貸してほしい人が見つかって、そういうことで中を改修しないと住めないんですけれども。

実は、先般ですけれども3月まで住んでおられる方がいらっしゃったんですけども、そこはやっぱり人が住んでいたものですからすごく中の保存状態もよかったですので、市のホームページに載せさせていただきました。そうしたら早速申し込みがございまして、おみえになって、これはいいということで転入してくださるということになって。一応1軒だけですけれども、そんな感じで今のところは進んでいます。

うちは田舎ですので、入ってきた人がどういう人かということが一番心配されます。いろいろみんなに迷惑を掛けるのであれば、壊してしまいたいというような方がほとんどでございまして、これからは壊す費用が相当掛かりますから、それが今後の大きな問題になっていくんじゃないかと思っています。

それから、交通のことなんですけれども。うちも山間のところでございますので、以前は京福バスが1日一便とかそういう程度で通っていたんですけれども、合併してから学校が統合されていますので、子どもさんが少ないんですけれどもスクールバスを運営して下さっているんです。以前はスクールバスだけだったんですけれども、合併してからはおかげさまでそのバスに地域の方も100円を出せば乗せてもらえるということで、日に4回ですけれどもそういうことができましたので、これは年寄りが利用しやすくなったと思っております。

下川部会長

それはどなたが運営をされている。

大森委員

市にお願いしているんです。

下川部会長

市が。

大森委員

もともとスクールバスは市が運営していましたので。以前までは一般の方を乗せることは難しいというお話だったんですけど、市のご協力で許可を受けていただいて、地域バスとして乗れることになりました。美山地域は地域バスか京福バスが走っていることになっておりますので、今のところはこれだけ、だんだんこれからは高齢化が進みましてそのバスにも乗れなくなる方がどんどん増えてまいりますので、そういうことも今後の大きな問題かなと思っております。以上です。

下川部会長

ありがとうございます。栗原さん、お願いいたします。

栗原委員

これは宿題の3点について話せばよろしいですか。

下川部会長

そうです。

栗原委員

だいたい時間はどれぐらいで。

下川部会長

手短かにお願いします。ほかにもいっぱいあるので。

栗原委員

交通につきましては、今、えち鉄と福鉄とJRがあるわけなんですけれども、脱自動車依存の社会を目指していくべきだと思うので、それを前提としたまちづくりも必要でしょうし、そのために公共交通やインフラの整備とか、あるいはソフト面でもっと利用しやすくするといいますか。えち鉄なんかでも最近1日乗り放題のフリーのチケットとかそんなものもありますけれど、例えば1日乗り放題のチケットで、えち鉄も福鉄も相互乗り入れしますから、1日どこにでも行って遊べるみたいな。温泉につかって次の場所へ行ってまた温泉につかってとかそういうことができるようなチケットを、500円とか800円で売り出せば、それなりに乗る人が増えてくるんじゃないか。まず公共交通機関に興味を持って乗る習慣

づけが大事だと思うんです。だから、そういうこともやりながら進めていく必要があるんだらうと思います。

それから、コミュニティーバスなんかは大変便利なんですけれども、私の板垣地区では最後のバスが7時半なんです。福井の駅前というのは7時ぐらいが最後だらうと思うんですけど。これからのライフスタイルを考えると、やはりワークライフバランスを取っていく社会づくりが必要だからもう少し働く時間を減らして余暇とか自由に私的に使える時間を増やしていくと思うんです。そうするとその空いた時間は何をすることとなると、例えば駅前に行って飲もうとか、友達と会って話そうとかあったときに、車を置いていきたいとなると、今は帰りの交通機関が何もなくて、結局タクシーに乗るか代行で帰るほかないんです。

それも仕方がないんですけど、今後もし進めていけるのであれば、そういうライフスタイルに合った生活ができるように、12時ぐらいまで頻繁でなくてもいいから公共交通サービスが利用できるような社会づくりが欲しいと思うんです。そうなれば、やっぱり中心市街地を利用したライフスタイルが変わってくると思うんです。今は中心市街地に頼らないライフスタイルになってしまっているんです。結局、買い物は郊外の大型ショッピングセンターみたいなところに行ってしまう。

次の問題は8号線です。8号線のエルパ周辺は、曜日にもよりますけどどんどん渋滞化しているんです、時間によるかもしれないんですけど。8号線のあの周辺にどんどん大規模な店舗も出てきて、将来あそこはどうなるのかなと非常に心配してしまっていて、結局、今の8号線はスムーズに通れない道路になってしまうんじゃないか。県道旧8号線は、比較的すいていると思うんですけども、何しろ信号が連携していないのか、200メートル行って信号がまた赤で引っ掛かるとか非常にスムーズな通行ができないので、旧8号線を信号も含めてもう少し利用しやすい道路にもう一度整備し直せないのかなという気がします。

それから自転車です。やはりこれから健康志向の住民が増えてくると思うんです。そうすると歩く、自転車に乗る、これがどうしても増えてくると思う。私も時々自転車に乗るんですけど、怖くて、まったく安心して乗れないんです。それでも乗りますけれど。左側通行をなさいというんですが、左側通行をすると後ろから車が来ているのがわからないんです。バックミラーを付けていますから私は見れますけど。だから、今までは違反だとわかっていても、わりと右側通行をしていたんです。まだ対向車が来る方が安心できるんです。左側通行といわれると非常に恐怖感が。そして、市内の自転車専用道路にしても中途半端な状態にあるんです。だからそこももっと自転車専用道路を整備して、自転車で通勤する人、通学する人が安心して走れるような道路にしていく必要があるんだらうと。

それから、もう1つはコインパーキングですけど。コインパーキングは非常に今、中心市街地の方に増えておりますけれど、非常に便利なんです。安いし便利がいい。あれは非常にうまくできていて、ちょっと利用しにくいところはものすごく安いんです。1時間100円とか70分100円とかで、地下に潜る必要がない。だから非常に便利です。

私が心配なのは、今、市の駅前の地下駐車場の利用状況がどうなってしまうのが心配なんですけれども、そのあたりもコインパーキングの方にもまちづくりの観点からいろいろ問題点もあるでしょうし、市営駐車場の方も潜らざるを得ないのはしょうがないんですけど、やっぱり料金の面で考えていかないと、コインパーキングに全部やられてしまうのではないかという気がしています。

それから、次は空き家の問題ですけども。空き店舗とか空き家は、工夫すれば需要は

あると思うんです。これはアイデア次第だと思うんです。新しい使い方を考えないと駄目なのかなと。だから、空き家も民家なんかも人が住む民家として使うのではなくて、さっき言われましたけどピザ屋さんという使い方もあるでしょうし、コミュニティーカフェみたいな使い方もあるでしょうし、ギャラリーみたいな使い方もあるでしょうし。そば屋さんみたいに、ここはそば屋さんかなと思えるようなところも最近は何処々にありますけど。民間もそういうふうに住居として使うのではない使い方、空き店舗も同じようにリノベーションということで今話題になっていますけど、そういうことも必要でしょう。

そういった空き家とか空き店舗を県内の伝統工芸の展示販売とか、あるいは美術工芸作家に貸し出すとかそういったこともできないのか、あるいはさっきもちょっと出ましたけれど、ロングステイとして使えないのか。ロングステイというかそれももちろんいいですし、ショートステイです。例えば県外の外国人とか観光客とか、特に外国人観光客なんかは日本の民家に住みたいという要望が結構あるんです。日本の民家を外国人がシェアハウスのように使えるような、そこに1週間、2週間滞在して、そしてゆっくりと福井市内とか福井県内を旅して回るとか、そういう使い方です。これはもう外国人に限らず日本人なんかにニーズがあると思いますし、1週間単位で借りれるとか、月単位で借りれるとか、そういうのを月5万とか8万円で貸すとか、1日3,000円から5,000円で貸すとか、そういう使い方ができるのではないかなと思います。

その次、地域資源の活用です。ちょっと話はあちこちに飛びますが、さっきも出ました学校とか公共施設です。そんなのも地元の人にはあんまり見向きされなくても、都会に住んでいる人にとっては斬新なアイデアで変わったプログラムを企画してやれば、夏休みとか冬休みとかそういうものを利用して集まってくるじゃないかなと。要するに田舎の学校といいますか、都会の人を対象に田舎の学校。そこで何を学ぶかといったら、地方の歴史とか地方に豊かにある自然とか、文化とかそういうものが学べるとか、そういう田舎の学校、そんなものを開設すると面白いんじゃないか。

それから、地域資源の活用で私が常々思っているのは、福井県って寺院仏閣がいっぱいあるといわれているんです。寺院仏閣が47都道府県の中でも多い県だといわれているんですけども、その寺院仏閣って一般住民は、お年寄りがお話を聞きに行くときにしか出入りしないんでしょうけど、寺院仏閣が住民にもっと開かれていて、楽しめる場所であってほしいと思うんです。そういう工夫を寺院仏閣にもしてほしいし、整備の支援も必要かなと。要するに寺院仏閣をライトアップしたり、美しい庭園を整備したり、中でいろんなイベントをやるとか、それぞれの寺院、仏閣のお宝展をするとか、いろんな使い方ができると思うんです。最近でもお寺の中でライブをやったり、そういう使い方もありますけれども。

ヨーロッパにしてもアメリカなんかを見ていると、結局教会とかモスクとかが魅力のある場所になっているんです。でも日本は、寺院仏閣って永平寺ぐらいは観光客が行きますけど、この市内にいっぱいある寺院仏閣は眠っているんです。それぞれ寺院仏閣は歴史もあるでしょうし、そこでは歴史も語っていただきたいし、もっと利用できるのではないかなと思うんです。

それから野球場の跡地です。市の野球場の跡地、あそこが今、中途半端な公園みたいになっていますけど、あそこはもちろん公園でもいいですけど、公園なら公園でしっかり魅力ある公園にすべきだと思いますし、ほかの用途を考えるのであれば、ほかの用途で早急に整備をしていく必要があるのではないかな。

それからJRの高架下の活用です。高架下も今は物置や駐車場みたいないろんなかたち

で使われていますけど、そういう使い方もどうしても必要なら仕方がないんですけど、アメ横みたいな使い方とか、近江市場みたいな使い方とか、高架下をもっと魅力あるかたちにできないのか。

それから、中央公園ですけれども。今整備が進んでいますけど、この前もお堀の灯りのときに人力車がちょっと走りましたが、お堀の周りのあたりを1周人力車で回るようなことができないのかと思っております。ちょっと長くなりますので、もうやめておきます。

下川部会長

ありがとうございます。本当に貴重なお話がたくさん出たと思います。

町井さん、お願いします。

町井副部会長

交通面から見ますと、この福井は接点が非常に少ないです。あるところへ行ったらぶつと切れてしまうというようなことで、それは従来からずっといわれてきたんですが、次の行動ができやすいような交通のシステムをつくるのがまず第一だろうと思うんです。それが1つ例として、田原町から福井の方へ入ってくる、これも一番身近なところのあれです。そういうようなことでやれば、お客さんもうまく流れてくるのではないかなと。

それから、今の空き家問題ですが、私らの地域にも空き家がたくさんあるんですが、非常に問題なのは住む人がだんだんいなくなってきたと。例えばAという家があってそこに親子3代ほどいたけれども、何年か後には空き家になっている。その人を探すのにも大変な苦労があるということで。

1つの例ですが火災があったんです。火災があって4年ぐらい今日まで空き家になって、その地主さんで継承していく者がみんな死んでいったということで、いろいろ市の行政の方も手回ししていただいて探したら、1人跡を継ぐ者があったそうなんです。今度はその財産管理がその人に一時的に行くんですけども、私は放棄しますということでその人が放棄したということです。社会環境が変わるごとに生活の仕方もだんだん変わってきて、自分が後を見るのも面倒くさくなるんだね。それでつい出てしまう。出てしまえば気分もさわやかになって、新しい生活ができるということで繰り返しになるんでしょうけれども、一番大事なのは結局継承する者を何とかつくっていかなければいけない。

それで、今、家庭の中でもおやじさんは一生懸命やっていたけれども、子どもは外へ行ってしまった。もう自分を継いでくれる者はいないというのが、今日の現状でございますので、それをいかに打破して継承していくか、つないでいくか、これが今残されたわれわれの課題だろうと思うんです。私はいつも思うんですが、今、われわれがしっかりしないと本当にまちそのものが風化してしまうのではないかと心配をして、この間もいろいろな話の中で皆さんにお願いをしたんです。

私は今、自治会関係をやっていますから、絶対自治会というのとはなくしてはならないと思います。このような大事な組織はどこへ行ってもないんだから、まずこれをしっかりしようということで、現在それぞれの役職をやっている方にもお願いして、必ず自分の跡継ぎをしてくださいよと。それから自分が代替わりしてもいいと思うけれども、それまでは一生懸命お願いしますというようなことでこの間もちょっと話したんです。ここが一番の要だろうと思うんです。

人間が生きてきた以上は、やっぱり自分が最後になるまでは一生懸命やっつないでいくという心が、これからは必要になるのではないかと。絶対的に必要だろうと思うんです。これがなくなったら組織そのものもマイナスになってしまう。何にもできないことになる。

それからもう1つ、今話にも出ていました地域資源。これも確かにたくさんそれぞれの地域にはあるはずなんですけれども、それを活用する人がいないという問題がある。問題は人がいないということです。いくらいいものがあったとしてもそれをつないでいく人が少ない。ついこの間もテレビであったんですが、東京から親子で来て、周りの風景を見て、ああ、空気がいいなというようなことを子どもが言う。お母さん、なんといい空気でしょうというのがテレビの会話の中に入っていたんですけれども。

やっぱりそういう環境もいろいろ考えながら対策を考えていかないと、ただ来てくださいでは何にもあかんのかなということです。それとやはり生活する以上は食べていかれるような、そういう周りの者も一生懸命支えていかないとその地域が発展しないのではないかと、自然消滅する恐れがあるということで、われわれも非常に心配をしている今日でございます。だいたい思っていることを申し上げました。

下川部会長

皆さん、どうもありがとうございました。大変貴重なご意見がたくさん出てきました。皆さん、これをちょっと見ていただいているいいですか。僕は今、赤ペンで皆さんのお話しされたのをざっくり記させていただきました。なぜ僕はこうやって印をしているかといいますと、この資料そのものが、皆さんが前回教えてくれたことを私なりにぐぐっとまとめ直したのがこの資料です。このことは先ほどお話ししたとおりなんですけど、今日頂いた皆さんからの課題は、さらに私がこうやって書き留めていきまして、さらにブラッシュアップして次回皆様にまた新しい資料をお示ししていきたいなと思っています。

皆さんから頂戴したご意見というのはどれも素晴らしいご意見ばかりで、何とか今回この政策、施策の中に組み入れていきたいものばかりなんですけど、そこでこの資料を基に皆さんとこれからいろいろお話をしていきたいと思うんです。今回、私たちは第六次総合計画から第七次に移行していくわけで、その流れの中で、第六次を最大限に引き継ぎながら第七次に向かっていきたいと思います。

その意味というのは前もお話ししたように、こういう大きな政策というのはころころ変わるのもおかしいですし、やっぱりまちづくりに連続性を持たせるためには六次で5年間、七次が5年間、この10年間しっかり政策を続けていきたいと思いますというのが基本なので、私たちのスタンスはそうだと思います。そうでありながらも、時代もちょっとずつ変わっていきますし、皆さんから頂いたご意見を聞いていますと、やはり六次から七次に向けて少しブラッシュアップをしていく部分も必要なのではないのかとも思います。そういうことで、今回皆さんから頂いたご意見をぐぐっとまとめたものを見ていきたいなと思います。

まず黒い枠の中に白い字が書いてあるところを見ていただきたいんですが、A、B、Cと書いてありまして、Aがまちなかに関する政策、Bが地域に関する政策、Cがインフラに関する政策というように分かれています。皆さん、前回いろいろお話を聞いていますと、六次構想の話としてこれを見ながら話をしていましたよね。でも、やはりこれがまちなかのことばかり言っていたのでどうかなと思ったんですが、皆さんから出てきた話というのはまちなかに限らず、それ以外の中山間地域のことなんかもたくさん出てきたと思います。そこを上手にやっぱり整理しようとする、まちなかとそれ以外の中山間地域をひっくりめた地域にずばっと分けて、これは整理をし直して政策なんかを盛り込んでいった方がいいんだろう、そんなふうに思っています。そういうことで、AとBでまちなかと地域に分けさせてもらいました。

Aの下のところに施策と書いてありまして、1つ例を取り上げますと、「自然・歴史文化等の地域資源を活用して賑わいと魅力ある県都の顔をつくる」というような書き方をし

てあるんですが、これは何かといいますと第六次構想のこの部分です。中心市街地を扱っている政策の一番左側の「県都としての魅力を高め」というこの部分をぐっと政策の中に盛り込んで、なおかつ皆さんから前回、そして今日もお話ししていただきました自然とか歴史文化とかそういった地域資源、それに、今日は他にもたくさん地域資源の話は出てきましたが、そういったものを県都の賑わいと魅力の要素にしていけないか、こんなふうにとまとめ直してみました。

その右横に①と書いています。これは何を意味しているかということ、皆さん、この資料をお出ししていただいてもいいですか。お手元にないでしょうか。これをちょっと出していただきたいんですが。これの左側から順番にわれわれの基本目標1のところなんですが、この施策の「賑わいと魅力ある県都の顔をつくる」という一番左側のところから順番に①、②、③と振って行ってほしいんです。施策のところの「賑わいと魅力ある県都の顔をつくる」、これが①。次に②になるのが「地域の特色と資源を活用した個性ある町をつくる」が②になって、左側から順番に①、②、③と番号を振ってもらってもいいでしょうか。

番号を振っていただいて、そしたら、私たちの範囲の一番お尻の数字が④になるんです。それとここに赤字で記されている丸のところを照らし合わせてみますと、実は第六次構想をこの丸の部分でしっかり担保していく中で、私たちとしては次回、第七次に向けて新しい提案ができないかなと思っています。先ほども言ったように六次をないがしろにしながら新しいものを提案するのではなく、あくまで六次をベースに置きながらも、私たちがこれまで話をしてきたようなくみ取られなかった部分をしっかりと担保して行って、それを七次構想に当てはめながらしっかりと新しい提案をしていけたらいいかなと思っています。

今日、皆さんからお話ししていただいた交通、空き家、地域資源の活用については、おそらくほとんどがこのAとBの施策の中に入っているのではないかなと思っています。堀川さんの鉄道とバスの連結の話、実に重要な話です。人が使うか使わないかというのは、栗原さんのおっしゃったようにソフト的な面も大きいんですが、ハードとして連結をうまくやってあげられるかというのは大きい話だと思います。そういったものもここでいうと「市街地と農山漁村部を結ぶ交通の充実をはかる」というところに入るでしょう。

Bの地域に対しては農山漁村部間はどうするんだと。農山漁村部と農山漁村部をつなぐ交通なんかもこれからどうしていくんだといったときに重要な話になってくるだろうなと思いますし、高齢者が集まれる施設のお話を大森さんなんかがなさってくださいました。そうしたときに、それというのは「公共施設・住宅ストックを利活用する」という部分で、しっかりその中に入れていきながら担保できないかなと思っています。

このように今、まちなかと地域に分けてお話をさせていただいているところなんですが、ざっくりと施策の部分を見ていきたいと思うんですけども、特に中心市街地とか中心部の方では、県都の魅力ある顔づくりをしていく六次構想という大きな題目がありましたし、それをしっかりとくみ取りながらその地域資源はいったいどんなものがあるのかをさらに加えていきたいかなと思っています。その中で高島さんがおっしゃっていただいた足羽山とか足羽川とかそういったものもひっくるめながら、地域資源をどのように活用していけるのかというのが重要なテーマにもなってくると思いますので、そういった中身を入れていけたらいいかなと思っています。

櫻井さんの方から結構強くお話に出ているのが、農山漁村部と市街地を結ぶ交通をいっただいどうするんだと。真っすぐ通してくれよと。通らないでしょうけど。

櫻井委員

そうなんですよね。

下川部会長

でも、それはおそらくみんなが思っていることなんでしょうね。時間もかかる、しかも本数も少ない、そういう問題を抱えていらっしゃると思うんです。そういったところもやっぱりしっかりと今後検討の余地があると思いますので、そういったものを市街地と農山漁村部を結ぶ交通の充実を図るといった中に入れていけるのではないのかなと思います。あくまでここで言っているのは施策のタイトルではなく、皆さんにわかりやすくお示しするための言葉としてこのように書かせてもらっておりまして、別にこれがタイトルになるわけではないんですが、そのように思ってください。

その他、まちなかに関するものとしては、商業とかサービス集積とかのキーワードを挙げさせていただいているんですけども、こういった視点でものを見ていく必要があるのかなというので挙げさせていただいております。六次構想で北陸新幹線の整備を進めるといっているんだけど、今までの話し合いの中で私たちから北陸新幹線の話は全然出てこない。こういうことにもなっていますし、そこはしっかりと六次を引き継ぐように担保もしていきたいなと思っています。

特に栗原さんが今回課題で出させていただいていることというのは、やっぱり観光のお話が多かったかなと思っているんです。中心市街地のこれからの地域資源の活用については、日本人だけじゃなく外国人さえもちゃんと考えて、どうやっていくのかを考えながらやっていく必要があるのではないかなというお話もあったと思うんですが。当然、まちなか観光という視点で中心市街地をどうやって作り込むかということも中には入れていかないといけないでしょうし、そういうのはおそらく地域資源を活用しながらやっぱりやっていくものでしょうし、あと公共施設とか、空き家、空き店舗の話もありましたね。そういったものを活用するときに観光資源としてそれをどう活用していけるのかという視点もたぶんあるでしょうし、そういったものもこのまちなかに関する施策の中にしっかりと取り入れていく必要があるだろうなど、そんなふうに思いました。

自転車の安全性、利用促進。これはずっと言われているんですけど大事です。これを何とか交通の中に盛り込んでいけるようにしていくべきかなとも思います。寺院の簡単にいえばまちづくり活用ですよ。ヨーロッパの話が出ましたけど、ヨーロッパは確かに中心となる寺院は観光地化しているんだけど、地域住民が関わっている寺院というのは観光地化はむしろされないというか、しない方向に持ってきているので、おそらくここはすみ分けをするべきで、ここは地域密着で観光客はむしろ来るようなところではないというものもあるだろうなと思いますし、そこら辺のことを検討する余地というのは確かに地域資源としてはあるだろうなと思いました。

栗原委員

ちょっといいですか。さっきいろいろと申し上げましたけれど、観光振興を強く意識していたわけじゃなくて、居住人口だけでなしに、もちろん交流人口を意識した施設の利用とかそういうのを考えなければならないということをお願いしたかったのと、それから寺院仏閣も観光客のためというのではなくて、もっと住民に。

下川部会長

開かれるということですね。

栗原委員

普段利用されるような施設に変えていく必要があるということです。

下川部会長

わかりました。ありがとうございます。

地域に関する政策の方を見ていただきますと、「農山漁村部間、農山漁村部内を結ぶ交通の充実をはかる」というところなんですが、特に美山のお話なんかすごく参考になったかなと思います。市の方でスクールバスを活用されて、地域のお年寄りの方なんかも利用されているというお話がありました。

われわれがちょっと見落としがちの部分というのが、どうしても基幹交通といいますか、市街地と中山間地域をどう結ぶのかという話はよく出てくるんですけども、実際に中山間地域で生活をしていらっしゃる人たちの足がどんどんなくなってくる中で、そこをどう担保してあげるのかという視点が必要かなと思います。そういう意味では美山の市がスクールバスという話は非常に参考になるでしょうし、その部分は農山漁村部内を結ぶ交通、そんなふうにくることができるのではないかと考えております。

「生活圏の集約を目指して地域拠点機能と住まいの充実をはかる」というお話なんですが、次から次へと新しいことが出てきて大変恐縮なんですが、皆さん、ちょっとこれをご覧いただいてもいいですか。皆さんのお手元に配られているこれなんですけれども、「4つの視点から見た将来の都市の姿」という資料なんです。実はこれは第六次総合計画を受けて都市マスタープラン、都市マスが描いたざっくりいうとコンパクトシティーの絵なんです。

ここで注目してほしいのが、福井市というのは山から海までかなり帯状に広がっている市なんです。それを公共交通機関でしっかり結んでいくというわけなんです。どこを結ぶかということが重要でありまして、結ぶ場所といわれているのが地域拠点と呼ばれているところなんです。地域拠点と呼ばれているのはオレンジ色の丸でありまして、このオレンジ色の丸に地域拠点をしっかりとつくって、そこを公共交通機関でしっかり結んでいきましょうというような絵を一応描いてはいます。実際にその絵を描いているわけですし、そうなるように行政の方は頑張ってくれていると思っはいるんですが、こういう絵がやっぱり前提になるのかなと思っはいます。

皆さんに注目してほしいのが、右側の黄色く囲われている②の「身近な生活空間づくり」という部分なんです。ここに地域拠点の情報が載っています。ここを見ますと「店舗や行政サービス施設、医療施設などの日常生活に必要な機能を主要なバス停や鉄道駅と連携した地域拠点に誘導・集約します」といっています。ここでいう日常生活に必要な日常生活圏を設定されています。この絵を見てみますと、日常生活圏の中に1から3の中学校区程度って書いてありますね。つまり行政区として中学校区という単位で日常生活圏を設定しております。

ですから、農山漁村部といわれているところも面的にもものすごく田んぼがたくさんあるので、農山漁村部といわれているところは集まって生活をするというよりも、むしろ離れて住宅が点在しているわけなんです。そういったところもひっくるめて地域拠点というものをつくって、周辺に住んでいらっしゃる方々が、その地域拠点を中心にこれからも生活をし続けられるような状況を、福井市としてはこれからどうつくっていけばいいのかという話になってきます。ですから、私たちとしては本当に地域拠点と呼ばれているものもしっかりつくらないといけないと思っはいますし、さらに日常生活圏で生活をされている人たちが、本当にこの地域拠点を中心としてこれからも生活をし続けられるかなというのは課

題だと思っています。

以前、大森さんの方から、美山の方は生活が、住環境が帯状に広がっていると伺ったと思うんです。地域拠点はどういう具合に設定して、そこに人が地域拠点を中心に集まれるか。その地域拠点に必要なのは行政サービス、医療とか福祉とかもひっくるめた行政サービス、あとスーパーなんか必要です。子育て支援のものも必要でしょうし、デイサービスとかお年寄りがそこで充実した余生を過ごせるようなそういう状況もつくり出してあげないといけないと思います。つまりこの地域拠点をしっかりつくり上げていかないと周辺のまちづくりというのはうまくいかないだろうなと思います。

確かに空き家とかはこれからどんどん出てきて、リノベーションをして住むための空き家活用というのはあり得るかもしれませんが、皆さんからお話があったようにその利用率としては低いだろう。むしろセミナーハウスをつくったり、あるいは観光の宿泊施設としてリノベーションしたりとか、あるいはカフェにしたり、地産地消の野菜を使ったレストランをつくったり、そういう利活用の方がむしろいいんじゃないのか。地域の人たちも使えるし、観光客もそういうものを求めてきたり。東京で生活をしている若い子育て世代の人たちが、そういうのを求めてまた中山間地域に引っ越してきたり、そういう循環型の中山間地域をつくり上げるというお話はよくわかります。大事だなと思うんですが。

やっぱり、行政としては地域拠点をしっかりとつくり込んだ上で、民間がそういう努力をしていく、自分の地域は自分で守っていくような努力をしていくというのがうまく融合して、今後、中山間地域というのは維持し続けるんだらうなと思っています。

そういう意味で戻りますと、Bの地域に関する政策の部分では生活圏の集約を目指して、地域拠点機能というものをしっかりと充実していかないといけないですし、また地域拠点機能を中心にそこで生活をなさる方々の住まいというものの充実を図っていく必要があるんだらうなと、そんなふう考えております。

⑧を第六次構想で見ますと、⑧はどんな書き方をしているかという、政策としては次世代につなぐ安全な社会基盤が整ったまちをつくる、そして施策としては、住まいの充実を図るという部分なんですけど、漠然としていて何を言っているかわからないんです。より厳密にイメージしやすく、生活圏の集約を目指して地域拠点機能と住まいの充実を図ると、文言はこのとおりいくわけではない。意味合いとしてはこういう具合により絞り込んだ話として、我々としては七次構想を作っていく方がいいのではないかなと思っています。

公共施設と住宅ストックについては、これはもう皆様が今日課題として出していただいたお話のとおりだと思います。まちなかの公共施設やまちなかの住宅ストックと、中山間地域の公共施設や中山間地域の住宅ストックでは用いられ方も当然変わるでしょうし、意味付けも全然違うと思います。それぞれに公共施設はどうすればいいの、空き家はどうしていけばいいのというのは検討していく必要があると思います。それを今日皆さんから課題として頂戴いたしました。私はだいたいここにメモっていますので、次回こちら辺をさらに集約して、皆さんと新しい議論をしていけたらいいなと思っています。

そのほかBの地域に関する政策については、キーワードとして定住とか耕作放棄地とかこういうものも多くなってきているんですが、景観の話とか土地区画整理ってなかなか難しい話なんですけど、そういう問題もありますし、さらに皆さんがまだまだお話をしていないものなんかもあると思います。こちら辺もちょっと私の方で皆さんがお話ししやすいように、次回また用意してきたいなと思っています。

それでは、ちょっと話を変えまして、今まではAとBの話し合いをしてきて、皆さんから頂戴した課題をさらに私の方でブラッシュアップして、次回このAとBにまとめ直して

きたいなと思っているんですが、皆さんに今日新たにCについてご意見を頂戴したいなと思っています。そのCについてちょっと見ていきたいと思います。

Cはインフラに関する政策についてです。第1回目の部会ではこのC、インフラに関する部分は、ほとんど基本的な部分だから議論する余地もないでしょうと。そのまま六次構想をスライドさせればいいでしょうという話をしました。その考えにはまったく変わりはないんですが、新たに皆さんにちょっとご紹介したいお話がありまして、これについて皆さんから今日ご意見を頂戴したいなと思っています。

それは何かといいますと、ここに文章を書いているので読みます。「人口減少時代を迎えた日本の各市では、市民生活を支える行政サービスを、質を落とすことなく提供し続けられるかという大きな課題を抱えています。市政における投資の大部分は、水道やガス等を含めた公共施設に掛かる建設費と維持管理費です。今、この課題に目を向けなければ、将来の子どもたちに負担を強いることとなります。この課題に対して、福井市各室・各課によって将来を見据えた議論・事業展開をしてもらえるように、この七次総合計画で楔を打ち込んでおきたいと思っています」これは実は私の思いなんです。

どういってお話かといいますと、空き家のリノベーションの話、公共施設のリノベーションの話がありますよね。あれ1つ取ったとしても誰がするの、プレーヤーは誰なのという話には必ずなります。そうしたときに、住宅のリノベーションぐらいでしたら個人負担でできるかもしれませんが、公共施設と呼ばれている例えば学校とかそういうちょっと大きなものになってしまうと個人負担ではどうしても賄えないです。民間の企業がお金を出してくれればいいんですけど、おそらく福井のこれまでのイメージでは、行政がやるべきでしょうと、必ずこういう議論になるんです。

これからそういう空き家や公共施設がどんどん抜け殻になっていく状態の中で、行政が全部面倒を見ていかなければいけないのか。しかも行政が初期投資としてお金を使って、しかも今後30年間ランニングと呼ばれる維持管理費を払い続けていかなければいけないのか。そう考えていくといくらお金があっても足りない状況になってしまいます。この足りないというのは、前段として皆さんもご承知のようにこれから福井の人口はどんどん減っていったって、人口が減るといのは大きな問題ではありますけれども、一番ここに関わってくるのは生産年齢人口が減っていくということです。

今、福井の人口は、実はほかの県に比べて減り方は低いんですけども、それは高齢者が長生きをすると考えるとわかりやすいと思います。生まれてくる子どもは減ってきているんです。つまりそのまま、生まれてくる子どもが少ない状態で働ける世代がどんどんこれからスライドしていきます。そうしたときに、子どもが減っていった状態で生産年齢と呼ばれている15歳から65歳までの人たちというのが明らかに減ってくるので、これ以上行政におんぶにだっこでお金を払い続けろというのはなかなか難しいだろうし、そういうことを政策のベースにするべきではないと思っています。そういう意味で新たに、行政がお金を払い続けられないといけないところをこの七次の中で転換できるような楔を打ち込めないか、そんなふうに思っています。

実はこの話を私が言い出したときに行政の方々は、ありがとうございます、助かりますと言うと思いきや、「これは大変なんです」と。堀川さんだったらおわかりだと思うんですけども、なかなか難しいですよ。ただ大事なことは、こういうのを入れておいてあげないと議論すらできないんです。この総合計画の役割というのは福井市の政策の中で最上位のものでありまして、そこに準備しておいてあげないといくら下で議論しようと思ってもできないんです。だから、しっかり担保しておいてあげるのが大事なかなと思います。

来年それでは切り替えましょう、再来年成果が出ます、そんな話ではなく、これを本気でやろうと思ったら10年、20年かかるかもしれませんが、ただ、今から議論をしておいてもらうのは大事ななと思っています。

では、それをどうやってやるのという話なんですけど、これは実際こういう政策を盛り込んでおいてどこまで具体的な話ができるかなというところはあるんですが、1つの例としてちょっとお示ししたいのが、PPP/PFI方式といわれているものです。これは聞き慣れないかもしれませんが、せっかくなので皆さん今日覚えて帰ってください。

まず私がさっきから言っている公共施設というのは、六次構想でいうと水道とかガスとかそういったものが中心に議論されているわけなんですけど、私が言っている公共施設というのはそれだけではなく、学校とか美術館とか図書館とかそういった建物なんかも含めます。そういう意味合いで考えてください。このPPP/PFI方式というのは、これまで行政がたくさんのお金を出して、たくさんのお金を出すよりも維持管理費がものすごく掛かるんですが、簡単にいえばそれをさせないための民間主導の再開発方式です。

例えばこのNTTの建物、今第2別館として福井市が借りている状態なんですけど、この建物もだいぶ古いですね。こんなところの耐震補強をまだするといったら大問題になります。そうではなく、この第2別館の中に入っているものを別の場所に移そうとしたときに、行政が全部お金を払わないといけないのという話です。通常われわれの感覚としたら、市役所は行政がお金を出して建てるのが当たり前だろうというのがこれまでの考え方なんですけど、このPPP/PFIというのは、それすら民間の再開発に絡めながら行政がその中に入っていくというイメージです。

ポイントとなるのはSPCという事業会社のことでありまして、このSPCというのは簡単にいえば銀行からお金を借りる会社です。例えば福井であるならば、この中に福井銀行さん、あるいは福井銀行だけではなかなかつらいので、今福井銀行さんが頑張っているのは日本政策投資銀行さん、そういったところがこのSPCという枠組みをつくります。例えば、その中に福井の有力企業であるフクビ化学やセーレンなんかが会社をつかって、20億円、30億円のお金を借ります。それで建物を建ててしまいます。

そして、その中で行政が出せる範囲のお金を出してもらったり、あるいは一括してお金を出すことはものすごく大変だし維持管理費が掛かるので、行政に床を貸してその中に入って賃貸をしてもらう。そういう具合に、これからお金が掛かる行政サービスの部分、福祉や子育て支援など、行政はこっちの方にお金を掛けてもらって、むしろこのインフラに掛かる建設費や維持管理費については民間でしっかりと行政とタッグを組み合わせながら、民間ができることはきちんとやっていきたいと思います、そういう仕組みなんです。こういうのを何とかこの第七次構想に入れることができれば良いなと思っています。

ちょっと難しいお話だったかもしれませんが、今日皆さんからこれに対して少しだけ、わかる範囲で結構ですので、行政がこれからお金が掛かり続けるという現状についてご意見を頂戴できればありがたいなと思っています。ただ、それについては難しい話なので、無理だったらパスと言ってください。今日パスは3回まで用意しているので、パスと言ってください。

堀川さん、比較のお立場がそういうお立場なので、まだなじみがあるのかなと思うので、私の話もわかりにくかったかもしれませんが、ご紹介も兼ねてお考えをお示しいただければありがたいなと思います。お願いします。

堀川委員

まずPFIということの中で、行政側から見るとなかなか見えないといいますが、日ご

ろのお仕事の中からは見えてこないことが、逆に、周りにいる市民の中で商いをされている方の側から見ると、とても自分たちの利害にかなった施設があると思います。そういったところがいわば受益者負担にもなるんですけども。

民間が手を挙げてPFI主導でやらせてくださいと。それに対して行政が、そういった施設はあなた方に任せます。その代わり、それに必要な資金の捻出については、第三者機関に行政が保証人になってお金を借りることを容易にしますよと。年間幾らかのお家賃も発生すると思いますので、そのお家賃をお支払いしますと。

民間側としては、それに取り組むことによって安定した収入、つまり家賃というかたちで取りっぱぐれのない行政の方から安心して月々の収入が得られることと、それから保証も含めた投資に必要な金額を捻出することが容易になるというメリットのもと、行政側と民間側がお互いにウインウインのかたちで取り組むことができるということです。私は以前よりそれを提案はしてまいりましたし、もうこれからはそれを第一番に考えていくべきだと思っています。

下川部会長

ありがとうございます。難しい話ではあるんですが、わかりやすく言うと、皆さんにちょっとイメージしていただきたいんですが、アオッサに図書館が入っていますよね。あれは市立図書館です。あの市立図書館と同じフロアにスターバックスが入っているイメージをしてもらっていいですか。町井さん、スターバックスってわかりますか。

町井副部会長

ちょっとわからない。

下川部会長

わからないですね。コーヒー屋さんです。つまり市立図書館なのに、そこで本を借りて同じフロアでコーヒーを飲みながら本読みができるんです。どう思いますか。いいですね。でも、今はできない。この状態ではできないのです。なぜできないかという、あれは行政の床だからなんです。

一方、あれが喫茶店、スターバックスの床で、行政が図書館を置いていると思ってください。メインはスターバックスです。そこに行政が床を借りて本を置いているんです。そうしたらコーヒーを飲みながら本読みができるんです。実際、九州でこういう図書館があります。どういうことかという、民間主導の再開発の最大の特徴は、行政サービスの質が上がるんです。同じ図書館で本を貸すんだけど、ただ貸すのではなく、そこで付加価値を与えることができるんです。

わかりやすい話でいえば本の話をしましたけど、それが高齢者施設や子育て支援施設だどどんなことになるかという、さらにサービスが上がります。あとは市場の競争原理も働くかもしれません。これから人口が少なくなっていくって、行政がお金を出し続けられないといけない。でも一方では、それを民間が主導すると、図書館が利用者側にとってはよりいい図書館になる可能性があるとするならば、お金の掛からないそっちにシフトした方がまちとしてはよいと思います。

栗原さんが第1回目にお話をされていた、もっと利用者側の立場に立ってそれぞれがうまく回っていくようにすればいいというお話は、行政の限界と民間だからできることというのがやっぱりあって、行政にこれ以上あれをしる、これをしるというのもかわいそうな話で、できないことの方がやはり多いんです、民間の立場から言わせれば。

ならば、今後どうせお金が掛かるんだったら、民間がお金をある程度負担して、行政が

そこに相乗りをしていく、後方支援していくような、そういう仕組みにシフトチェンジしていけばいいだろうかと思っています。ただ、ガスでそれができるか、水道でそれができるかといふとなかなか難しいだろうなと思うので、できる範囲の話になるとは思うんですけどね。そんなふうに思います。ありがとうございます。

高島さん、難しければパスしてもいいので。

高島委員

あんまりわかっていない部分も多いと思うんですけど、先生の今の話で図書館の横にスターバックスという話が出て、それを聞いて何か引かれるものというか、そこだったらほかの図書館と比べたときにそこに行きたいなと思うとか、そういう部分で普通に生活している人がそこに行きたいと魅力を感じる部分はあるのかなと思うんです。それをするためにこういうことが必要だったら、できるのであればすれば、もっとみんなが集まる場所をそこにつくり出すことができるのかなというイメージを持ちました。

下川部会長

ありがとうございます。櫻井さん、越廼に道の駅はなかったですね。

櫻井委員

ないです。

下川部会長

例えば越廼の地域拠点をつくるときに行政がお金を出してくれて、10億円を出して道の駅をつくります。それは地元の人にとってうれしいですね。

櫻井委員

うん。

下川部会長

でも行政がやるから、できることよりもできないことの方が多いと思います。地元だったら、もっとこうできるのに、商売がもっとできるのに。行政としては、いやいや、物産を並べてください、そうしてくださいと制約がいろいろ入っちゃったりするんですが。それを民間が建てて、行政が観光案内なんかのブースを作ってくれて、あとの床は全部、地元の人たちや自分たちの好きな企業を入れたりできる、これはどう思います。ここら辺。難しいかな。難しいね。

櫻井委員

でも地域の人が入り込めるんだったら、それはいいと思います。僕も話を聞いたんですけど、何回か道の駅をつくるかつくらないとかいう話は出て、でも立ち消えしている。おそらく地域の人にはそこがあったのかなと。入り込めないから反対、そんなものはいらぬよみたいな、そういう意見があったのかなと思うので、やはり地域の人が入り込める、主導でできる施設だったら欲しいなと思います。

下川部会長

越廼は海側に空き家が結構出ているでしょう。おそらく民間が考えると、空き家をつかって道の駅を分散配置すると思うんです。でも行政だと建物を建てようとはします。どっちがまちにとっていいかという、のちのちのことを考えて、やはり民間でそういうことをしっかりマネジメントしながら、行政に側面支援をしてもらった方が、まちの姿としてはよくなるし、地元の人たちの関わり方ももっとよくなってくんだろうなと思うんです。そういう可能性があるというか。難しいですね。

町井さん、どうでしょう、この辺。

町井副部長

なかなか難しい話ですね。今のお話の中でも、地元の業者というとおかしいけれども、地元の人がうまく活用できる場所にしてあげることですね。

下川部長

大事ですね。

町井副部長

そんなに何もかも行政ができるはずはないですから、最優先は地元の人いろいろな考え、アイデアを取り入れて、それをしやすいようにしてやる。それが一番いいのではないかなと本当に今、ぽっと聞かれてこれぐらいの回答しかない。

下川部長

ありがとうございます。町井さん、パスを使わなかっただけでもすごいなど。ありがとうございます。

栗原さん、難しい話だと思うんですが、どうでしょう。

栗原委員

PFIですか、PFIね。

下川部長

PFIに限らず問題はありますけど。

栗原委員

PFIはもちろん、利用できるところは利用して、いろいろな施設整備をやっていけばいいと思うんですけど、私も詳しくないですけど、PFIを導入してやってうまくいっていない例もあるんじゃないかなと。

下川部長

なるほど。

栗原委員

全てがうまくいっているんじゃないなくて、うまくいっていない例も確かあったように記憶しているんです。例えば関西新空港なんかの整備はPFIじゃなかったんですか。関西新空港のターミナルビルとか。

下川部長

あれはどうでしたっけ。

栗原委員

あれは違うのか。神戸の方かな。大阪のトレードセンターとか、あそこがPFIじゃなかったかなと思うんですけど、PFIはうまくいっていない例もあったように思うんです。メリット、デメリットがあると思うので、利用できるところは利用して、低コストの行政運営ができるのであれば、もちろんそれに越したことはないと思うんです。

私が思うのは、ちょっと話が飛びますけど新国立競技場、あれは非常に大きな問題になって、結局ゼロベースでやり直すということになったんですけど。あれ1つ考えると、あれは地方行政にも当てはまることなのかなと思っています。結局あんな二千何百億円掛かるところまでいって、最終決定してさあ、いこうとなったところでひっくり返ったんです。

実に恥ずかしいことだと思うんです。あれの問題点は設計にもあるんだと思うんです。あれはやっぱり無理な設計だと思うんです。結局、あの設計でああいうものを建てようと思ったら莫大な建設費が掛かる。

これからの公共施設というのは、もちろんデザインも重要でないことはないが、いいに越したことはないですけど、一番大事なことは省資源・省エネ、省エネの公共施設です。それからランニングコストが掛からない施設、メンテしやすい施設です。複雑な構造にしてしまうと、とにかく修理にはお金が掛かる、建てたばかりで屋根から雨水が漏れるとか、そういう信じられない公共施設はいっぱい全国的にもあると思います。できるだけ構造は単純な方が建てやすいし、メンテもしやすく、故障もしにくいという、そのあたりも十分考えて、これから公共施設の整備をしていかなければならない。

下川部会長

ありがとうございます。

栗原委員

それで設計がよければもちろんいいですけど、設計最優先である必要はないと思います。

下川部会長

そうですね。

栗原委員

もう1つは、やはり耐震が非常に問題になるでしょう。福井市の学校はだいたい耐震工事が終わっているのかなと思いますけれども、今問題なのは、福井市だけじゃなくて全国的に、橋とか、水道管とか、ガス管とか、いろんなそういうものの老朽化に伴うリニューアルというか更新、そっちの方に莫大な金が掛かると思うんです。だから、新国立競技場なんかも、あんなところに使うお金があるんだったら、日本中の橋とか、トンネルとか、そういう危ない施設を安全なものにするためにもっと投資すべきであって、非常にばかげたことだったと思うんです。

下川部会長

ありがとうございます。この七次総に、こういうコスト面の話をインフラのところでおかれわれとして主張する。主張というのもおかしいですが、ここは入れておいた方がいいんじゃないのか。どうですか、あまり気にしなくてもいい部分ですかね。

栗原委員

入れられる分であれば、入れた方がいいかもしれないです。それと、お金が掛からない行政のために私が常々思うのは、例えば道路沿いに植栽が植え込んでありますね。あれも結局、手入れが行き届かなくて枯れてしまったり、雑草が生えたりしているところがいっぱいあるんです。これから3年後に国体もありますけど、道路脇の植栽とか、街路樹はしようがないかもしれないですけど、これを税金でやるというのは限界があって、もう地域に住む住民が協力して整備をしていかないと駄目だと思うんです。

そういう住民のボランティアの協力も得ながら、公共に掛かるコストを削減していくことも必要でしょう。施設整備の面でも、いろんな手法でコストが下げられるのであればそれもやるべきです。その際に配慮すべきことは、やはり省資源・省エネで、メンテがしやすく、ランニングコストが掛からない、そういうものを目指すというか。

下川部会長

そうですね。ありがとうございます。大森さん、そのコスト面の話なんですけど、いかが

でしょうか。

大森委員

私は詳しいことはわからないですけど。難しいこともね。これからそういう施設をつくるのか、公共施設をつくるということになると、どうしても市町村なりがやる事業について補助金が入ってくるんじゃないかと思うんです。

そうしますと、ある程度の補助金の適正化法律みたいなのがあって、いろいろと厳しいといえますか、違うことをつくっていたら駄目だとか、違う利用をしては駄目だとか、どうしてもそういうことが入ってくるので、住民として使う側にすれば、そういうのはあまりよくないんじゃないかと思いますが、できるだけこれからつくるものについては、民間の資金とかそういうものを活用されていくべきじゃないかと思うんです。

ただ、現在ある建物が結構あるんですよね。

下川部会長

はい。

大森委員

不要になっているものとか、現在使われていないものとか、そういう維持管理が相当市においても負担になってきているんじゃないかと思うんです。

下川部会長

そのとおりですね。

大森委員

そういうのをいろいろと、これもまたつくったときに起債を買ったり、補助金をもらったりして、まだ残債が残っていたり、補助金も返還というかたちになると、いろいろ難しいこともあるかとは思いますが。やはりよく似た業種の民間の方にお貸しするとか、売却してすかっとちゃらにしてしまえば一番いいんでしょうけれども。そういうこともこれから、現在あるものについて考えていった方がいいんじゃないか。維持管理で市の負担がだんだん減っていくんじゃないかなと思うんです。

下川部会長

そうですね。当然行政としては考えていないわけではないんでしょうけれども。

大森委員

そうですね。おっしゃることはよくわかるんですけど。

下川部会長

もう大変なんですよ。これから。

大森委員

そうなんです、そうなんです。

下川部会長

それはやっぱり積極的に施策の中に盛り込んであげておいた方が、行政としても考えていくインセンティブといえますか、きっかけになるかなど。それをどこの所轄で受けるのかとかいろいろ難しい話もありますし、これは財産とか、財政とか、役所としては一番お堅い部分のところに関わってくる難しい話でもあると思うんですが、ここはこれからの福井の将来を考えていくと、どこかで仕切りを入れて考えていく、腰を入れて検討していく必要があるんだろう。

それはもうとっくに来ているだろうなというところが僕で、実は六次総ぐらいで入っていないとおかしいぐらいの話だったのかなとは思っているんです。ここは、皆さんさえよろしければ、文言はどうなるかわかりませんが、何とかコストを抑えていくような話なんかを施策の中に盛り込んでいけたらいいかなと思っております。

堀川委員

コストのことで1点いいですか。

下川部会長

お願いします。

堀川委員

実は福井市役所の別館の耐震改修の事業があります。それについて僕は、移転をするべしという意見を申し上げていたことがありまして、そのときにいろいろ調べた結果、PFIにした場合と、行政が自ら取り組んで建物を建てる場合と、単価の違いがかなりある。それはなぜかという、行政が直営といいますか自主で建物を建てる場合には、国の安全基準を守るために坪単価でいうと130万円掛かるというんですよ。民間で建てると、80万円掛ければ素晴らしいものができます。それでは心もとないということならば、90万円、100万円も掛ければものすごいものができます。

下川部会長

民間の感覚からすれば100万円ぐらいかなという感覚がありますよね。80万円ぐらいでいけると。

堀川委員

はい。ところが行政が自ら建てるとなると、坪単価130万円を下ることがないということをお聞きしました。市役所からそういう回答があったんです。民間がやるのと、行政がやるのとで建物の違いというのは、民間がやった建物は危ないのかというと、むしろ新築で危ない建物なんか全然ないですよ。ですから、安全性という意味ではまったく遜色がないんですけど、でも念には念を入れてつくっていくと、国の安全基準それも行政としての安全基準を守ると130万円になってしまうという意味なんです。

ですから、そういった意味も含めてコストの削減を図るのであれば、やはりPFIを導入すべきだと思います。

事務局（山田総合政策室長）

すみません、1点いいですか。この総合計画の中の一番最後に、「この総合計画を進めるために」というところがありますね。

下川部会長

ありますね。

事務局（山田総合政策室長）

その中に当然、これまでも学校とか各種施設をどうするかという施設マネジメントで、壊すところ、統廃するところを整理もやっていますし、道路とか公共施設関係をどうするかということで、一番最後の方で、公共施設との総合的、計画的な管理運営をどうしていくかと、そういうことも維持管理が非常に大変だろうということもあって、市としては当然入れていくと。

そういうのがベースにあった上で、この第1部会のインフラのところ、先生が言われるような民間の資金をうまく入れてやっていくとかそういう話は。

下川部会長

方法はいろいろあると思いますよ。

事務局（山田総合政策室長）

そうですね。PFIは非常に先駆的で、法律ができてから10年ほどたつと思うんですけども、ただ、資金調達でSPC（事業会社）をつくっても、都会の方は結構やれるんですけど、こちらの方では民間がなかなか現実的にうまくやれないという問題もあって。最近も法改正があって、さらに民間が使いやすく入り込みやすくするという法律改正もあるので、そのあたりは書いておいていただくと、そういうところも視野に入れながらやっていけるということはあると思います。

下川部会長

今、山田室長がおっしゃったのは、六次総の中で一番右側にある「総合計画を推進するために」という部分の施策の部分では、効率的で効果的な行政経営の推進とか、持続可能で健全な財政の運営とか。

事務局（山田総合政策室長）

そのあたりに入ってくるんですかね。

下川部会長

ここら辺の話なんです。つまり財政に関わることというのは、インフラに関わらず全体の話なので、特出しをして、総合計画を推進するためにというところで担保がされているのは間違いないんです。ただ、第1部会でそれをきっちり文言化してあげられるかどうかというのは、ちょっと大きいお話かなと思っています。

それはなぜかという、お金がものすごく掛かってしまう大部分は、私たちが今議論している部分なんです。いってみれば、私たちがいるこの第1部会が実はものすごくお金を食っているんです。だから、そこを無視して全体計画の中に埋没させてしまうよりも、全体計画の中にも当然入ってはいるものですが、第1部会の中でもしっかりと責任を持って特出しをしておいた方がいいのかなと思っています。

ここら辺は本当に難しい。これを書いてしまえばやらなきゃいけなくなっちゃうとか、本当に難しいお話とかいろいろあると思います。ただ、総合計画を進めていく中で必ず事業評価というのが出てくるので、事業評価は数値化されるものなので、本当に数字として表れてこないとどうなんだという話になりやすいかもしれませんが、こればかりはなかなか数字に表れてこない部分もあると思うんです。

言ってしまうとすぐできるものでもありませんし、特にPFIになってしまうと相当なノウハウが必要になってくるわけで、協力する会社なんかも出てこないといけないし、なかなか難しいところもあるかもしれません。ただ、しっかりとそこを見据えた上でこれからの市政を議論していけるという土台を、この七次総で入れておくと、次に八次があるのかわかりませんが、次につながる一番重要なポイントになってくるんじゃないのかなと思っています。

すみません。このCについては、残りの公共施設の安全性の向上を図るという部分は、⑤、⑥、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭といろいろ付いているんですが、だいたいこういう具合にまとめられる話かなとも思いますし、災害に強いまちをつくるという部分も、ちょっと分散されているのでぎゅっとまとめてあげた方がわかりやすくなるのかなと、今そんなふうに思ってこのようなまとめ方をしているところです。

文言がこのとおりになるか、それともばらけさせるかというのはまだわかりませんが、

このインフラに関するところでは、公共施設の安全性と災害に強いまちという部分を六次総から担保しながら、公共投資コストをしっかりと落としていけるような、そういうものを新たに加えていければいいかなと思っております。またこれについて後から何かございましたら、ご意見頂戴したいと思います。

それでは次に、最後の皆さんへのご質問になるわけなんですけど、まちなかに関する事、地域に関する事、インフラに関する事、A、B、Cを通してのお話なんですけど、ここにキーワードが書いてありますよね。このキーワードは、実は六次の総合計画に関する事でもありまして、あとは一般的に、まちなかを考えるんだったらこれを考えないとあかんだろうとか、地域を考えるんだったらこういうことに配慮しないとイケないだろうとか、そういうことがキーワードとして抜き出されているわけです。これについて皆さんからご意見などを頂戴したいと思っております。ここでご意見を頂ければ、また私の方でまとめ直して、施策の中に盛り込めるようなかたちができればいいなと思っております。

今から5分間時間を取りたいと思いますので、皆さん、このキーワードを見ていただいて、これは大事だな、言っておかなくちゃいけないなということがありましたら、ご発言をお願いします。ちょっと5分間じっくり見ていただきたいなと。

堀川委員

それぞれ3つのキーワード全てにおいて。

下川部会長

全てです。すみません、新幹線だけは、ちょっと入れなあかんかなと思いますよね。今、これはすっ飛ばすわけにはいかんでしょう。

それでは、大森さんからいいですか。今、俺、不意打ちみたいな感じでしたね。こっちから行くと思ったでしょう。

大森委員

はい。

下川部会長

すみません。大森さん、もうどこでもいいので、何か気になるところとかはありませんか。

大森委員

別に気になりません。うちらは山の中に住んでいますと、まちのことはあまりわかりませんし、田舎で毎日動物との闘いとかそんな程度でね。やはり地域の人らは、自分の住み慣れたところで生涯を終えたいという人ばかりですから、今のままでもそんなに不満というか、あれをしたい、これをしたいとあまりないものですから。

ただ、さっき言ったように、高齢化してしまって、車にだんだん自分が乗れなくなっちゃいますからね。今はおかげさまで、90歳前後の方でも免許を持っています。ないと不便ですからね。そんな感じでやってはいますけど、徐々に車の運転もできなくなりますと、公共交通機関といいますか、そういうものが将来的にはやっぱり。それでも毎日毎日出掛けるわけじゃないですから、自分が出掛けたときに運んでもらえるとか、そういうことがあればいいかなと思うんです。今のところ普段の生活を見ていて感じるのはそんなところで、あまり詳しいことはわからないんですけど。

下川部会長

ありがとうございます。栗原さん。

栗原委員

まずAのところのキーワード、商業・サービス業集積ですね。そこで言えばいいのかどうか分かりませんが、やっぱり一番気になるのは駅前商店街です。元町商店街とか、新栄商店街とか、あのあたりをどうするのかなということなんです。どうにもならないのかもしれないんですけど、これはどうにかならないのかなと。あそこはもう限界に来ていますわね。地震が来たらすぐに壊れるような建物ばかりだと思うんですけど、あそこをやはり何か道筋を付けてほしいなという気がします。

それから北陸新幹線は、われわれ住民にとってというか、私個人的にはそんなに急ぎませんが、福井県の経済のことを考えると早く整備してほしいという、それだけかなと思います。

それから、まちなか観光・散策ですけど、これは、いわゆる駅前からずっと浜町とか、左内町とか、足羽川、愛宕坂を歩いて足羽山、できれば動物園、植物園、ずっと奥の方まで行って市立図書館あたりまで。それから、浜町、左内町に行く前に、駅前から行くのであれば片町、呉服町、田原町のルート、それから大名町、城の橋のあたりと、ここらは福井市の散策のゴールデンルートだと思うんです。そのゴールデンルートがまだ見える化ができていないんですね。

私個人的には、見える化するためにはれんがの舗装とか何かいろいろあるでしょう。アスファルトとかそういう舗装じゃなくて魅力的な舗装。そういう舗装ができているところを歩けば、ゴールデンルートを歩いているんだということですね。福井市の場合には雪が降りますので、除雪しやすい道路整備ということも考えると、そういうことがしにくい、道路整備は難しいんでしょうけど、そのあたりも配慮して、そういうこともできるのであればしてほしいなと思います。

もう1つは足羽川の整備です。進んでいるんでしょうけれども、やはりこれは中途半端なんですね。雑草がいっぱい生い茂っていて、景観が損なわれてウォーターフロントとしての魅力がないんです。やはり川べりを散策しながら、桜が咲いているときに桜も見られてとか、ロマンチックな魅力あるウォーターフロントになっていないところが非常に残念なわけです。

下川部会長

それは右岸、左岸、今どちらのお話をしていますか。

栗原委員

どちらもです。どちらかというそれは浜町寄りの。

下川部会長

まち側。

栗原委員

やはり両方大事なんでしょうね。浜町のことを考えると、浜町からすぐ出られる方は右岸にあたるから。でも桜橋を渡ってずっと行けば、すぐ出られますから、両方無理なら左岸の方からというか、桜並木の足羽山寄りの方かなとは思いますが。

それから、次のBの農山漁村については特に越前海岸です。越前海岸が非常に魅力がないんです。私の偏見かもしれないんですけど、時々聞くのは、昔に比べてあそこは観光バスがほとんど走っていないというんです。観光バスが走っていないのは何でか、それはよく分かりませんが、魅力がないから観光バスが走らないんだと思うんですけど。やはり素晴らしいロケーションだし、フランスのニースみたいな夢のある、ロマンチックな海岸

にしてほしいなと思うんです。若い人がドライブしたくなるような、そういうものですね。

それから景観については、さっき言ったゴールデンルートなんかは電信柱を全部埋設する必要があるんだろうと思います。もう1つ、駅前を中心市街地なんかは非常に看板が多いんですね。看板は全部撤去すればいいと思うんです。看板を見ながら探し歩く人は、ほとんどいないし、見えないし。結局、自己満足でなるべく目立つように大きいのを立てて、あれでは見えるわけがないんですよ。

私らも看板を見ながら歩くことはまずありませんし。それは地元の人間だからそうかもしれないかもしれませんが、都会、県外に行っても、そんなに看板を見ながらどこかを探すということはまずないです。もし目的地を探すために便宜を図るのであれば、その辺の配置がわかる地図、案内図をもっと充実させれば、福井銀行がここにあるとか、西武がここにあるとかそれで確認して歩けばいいので、看板を全部撤去したら美しくなるだろうなという気がします。

それから市の緑地避難所ですけど。これはちょっと具体的な話であれですけど、私は板垣に住んでいるんですが、避難所は木田公民館になっているんです。木田公民館とか、近くの公園です。ただこれは、公園なんかには、「万が一のときには木田公民館」と看板が出ているんですけども、木田公民館は水がついたこともありまして、浸水しているときにはどこへ行ったらいいいのかなと。第2避難所みたいなのがあるといいのかなと、これは細かい話でございます。

それから道路環境ですけども、狭い道路というのは結構ありますので。中心市街地でも、ちょっと郊外でも狭い道路がありますね。これは児童生徒の通学の安全を考えると、道路によっては一方通行というのをもっと取り入れられるところは取り入れてもいいんじゃないか。極端に不便にならない範囲で一方通行も、もっと増やしていいんじゃないかという気がしています。以上です。

下川部会長

ありがとうございます。堀川さん、お願いします。

堀川委員

まず北陸新幹線。北陸新幹線が来るということになりますと当然、先ほど栗原さんがおっしゃっておられたように、ここにも新たな高架ができますから高架下利用というのは絶対条件だと思います。今までの高架の幅が広がると考えてもらってもいいと思いますので、新幹線高架とJR高架をつなげた大きなかたちでの活用策もあろうかと思っています。

私は10年ほど前からずっと申し上げているんですが、スケートパークをつくってほしいと思います。これはPFIでもできると思います。全国でスケートパークがないのは福井県だけなので、ぜひつくってほしいなと。オリンピックの種目にもなるやもしれないのに、パークがないことには選手も育成できないし、発掘すらできないというような状態ですから、そこは見てもらってもいいんじゃないかなと思います。

それから自転車利用。これはもう絶対条件で、駅前に限らずですけども、自転車のことに特化した部署も福井市にできましたので、そこに期待したいと思っています。

それからBに行きます。耕作放棄地ですけども、この耕作放棄地は、中間管理機構が借り上げて、株式会社等々に貸し出しをするというようなかたちで解消は進んでいます。ところが、進んでいるのは便利なところばかりで、つまり形になる耕作がしやすい場所ばかりで、本当の意味で中山間地の険しいところ、それも田んぼ、畑がいびつな形にあるところは耕作放棄地の解消には全然なっていない。

ですからそこを何とかしなくちゃいけないと思うんですが、現状としては、その耕作放

棄地にまいますと、もうすでに田んぼとか畑だったはずなのに雑木林になっています。もう森の一部になっている。そんなところが今から田んぼ・畑に復活することは100%ないと思うので、そこは農業委員会とも行政がしっかり話をし、周知なり行政の方から働き掛けてそれを活用しやすいようにしてほしいと思います。

下川部会長

それは制度的な問題ですね。

堀川委員

今のままだと、田んぼ・畑のまま登記してあると手が出せない。建物1つも建てられないという規制があるので、それを外すためにも、そこはちょっと行政が動かなくちゃいけないんじゃないかなと思います。

それから、最後のCです。「行政と民間企業・団体が連携し公共投資コストを削減する」、これなんですけど、今、大名町交差点を見ていただくと4つ角がありますけれども、その2つの角は空き店舗だらけというか。県外からお見えになる方が、これから国体もあるし、新幹線も来るとなると、一番の大きなメーンの通りの角が非常に寂しい状態、朽ちている状態なので、そこを何とかしたいなと思います。

私は今、予備校が入っているところにホテル誘致を働き掛けているんです。なぜかというところ、福井市のお荷物になっている地下駐車場があります。地下駐車場は指定管理をお願いして民間が運営をしているんですけども、実際にはその運営に行政がお金を払って運営してもらっている。補填をしているという状況です。

その駐車場を指定管理としてホテルが運営をする、自分のところの付置義務駐車場として使うというふうになれば、補填するお金は必要なくなると思いますし、ホテル側としてもありがたい。なおかつ景観もよくなるということで今働き掛けているんですけど、ぜひ行政の方としてもそこに目を向けていただきたいと思います。以上です。

下川部会長

ありがとうございます。高島さん。

高島委員

難しいこと、わからないことがたぶん多くて、もともと福井の出身じゃないので、よくわかっていないことも多いんですけど。北陸新幹線ということは、今まで車とかで福井に遊びに来ていた人が電車で来ることが多くなるということだと思うんですね。そうなったら、駅から観光地まで、どうやって行くのか、帰ってくるのかとか、まちなかにもそういう見に行ける場所というのが、もっとわかるようになったら、もっとそういうところにも人が流れていくことができるんじゃないかなということだけ思いました。

下川部会長

ありがとうございます。櫻井さん。

櫻井委員

北陸新幹線で今後、外から人が来やすくなる、関東から人が来やすくなるということなんですけど、現時点で福井市に降りたところで何があるんだろうというのがわからないと思うんです。恐竜がありますけど、恐竜は福井県の今シンボルにはなっているかもしれないですけど、恐竜は福井市のものではないと思うんですね。なので、もっと福井市をアピールできるモニュメントなりがあってもいいのかなと思いました。

地域に関してなんですけど、僕は今、越廼地区に住んでいて、土地区画整理というところになるかもしれないですけども、3年ほど前に越廼に広いバイパスが通ったと聞いて、

本当に広い通りが海岸線を走っているんですけど、現時点でバイパスの周りには何もありませんよ。なので、この区画にバイパスを通して、さらに何か周りにしていくことは考えていたのかなというのをちょっと思いまして、これから何かできるのか、本当に、別にどうなるかわからないとか、そこは気になりました。

Cのインフラに関しては、僕は海に出る道路を何とかしてほしいというぐらいで、あとちょっと気になったのがPPP方式でした。あの建築なりそういう方式も、僕は全然詳しいことはわからないんですけど、例えば福井市内で、これを用いた施設とかはこれまでつくったのかなというのは、ちょっと聞きたいなと思いました。

下川部会長

ないです。あります。実績はありましたっけ。

事務局（山田総合政策室長）

いや、福井市はない。

下川部会長

県では。

事務局（山田総合政策室長）

県では少しあったと思うんですけど。

下川部会長

どこでやっていますか。

総合政策室

県立病院の駐車場とか、鯖江市の駅の裏の駐車場とか。

下川部会長

駐車場でやっているか。そうですね。ありがとうございます。駐車場でやっていますね。

櫻井委員

ありがとうございます。以上です。

町井副部会長

今、皆さんのお話を聞きながら1つ思ったことがあります。昨日のことなんですが、ちょっと九頭竜川と足羽川を車で通ったんです。仕事でも歩いたわけなんです。そのときに感じたのは、中州が今どんどん埋まってしまっている。川がどれで、中州がどれで、本流がどれかわからないような状態があって。ところが、いろいろ話を聞きますと、中州には鳥のすみかがあるんで、整備したら具合が悪いんだという、保存の方の反対派があるらしいんです。だけど、あれでは災害があったときに大変な事態が起きるんじゃないかなということなんです。

それから、まちなか散策の中でも、足羽川にしても堤防も散策できるようなあれですけど、今言ったように中州がどんとたまっているのが木が背丈以上にずっとなってしまったんです。あれを何かできないかなと、いろいろみんなと話していると、今言うように野鳥の会のどなたかが反対するんだというような声が聞こえてくるんです。そういう面で、もう少し内輪の中でうまく話し合いができないのかなということですよ。昨日回っていてそんなことを感じたところです。

それから2番目の地域に関する政策の定住。この定住なんかも、山間部の地元でさせるのか、それとも来たいという人がするのか、その辺をきちんとして。特に国体なんかもあ

るとなれば、おもてなしという言葉も出ているので、そういう全体からのあれを見て、市民としてそういう心付けをきちんとして定住する人を迎えるのか、その辺のけじめというものをどこかで付けてあげた方がいいんじゃないかなと、そんな感じもしております。

下川部会長

ありがとうございます。定住って難しいというより、つかみづらいところがありますよね。ただ、福井市民が住みたいと思わないような場所に県外の人に来るわけがないので、基本はやはり市民がきちっと住み続けられる住環境を整えきれるかどうか。そこから先に、新たに県外からの定住者獲得といいますか、それはおそらく、地域の中で地域住民が充実した生活を送っているのを見て、周りの人たちは、ああ、いいな、こんなところで住んでみたいなということで住まれるんだと思うんですね。まずは内からではないのかな。

特に総合政策というのは、そういうものだろうなとも思います。内からしっかりつくり上げていって、その延長線上に外からというような順序があるのかなと思いました。ありがとうございます。皆さんから今日、またまたたくさんのお話をいただきまして、どうやってまとめるかなと、そんなふうに考えています。

大森委員

すみません。1つお願いします。さっき忘れたんですけど。

下川部会長

お願いします。

大森委員

うちは雪国でございますので、冬になると雪がものすごく多いんです。こちらの方は比較的少ないんですけど、そういうことがどこに入るかわかりませんが、安全で安心な道路環境をつくるか、そういうところに除雪とかそういうことも。今まで皆さんが頑張ってやってくださっていますけれど、今後のこともあって、それもどうかと思います。

下川部会長

ありがとうございます。お金がなくなってくれば一番切られそうなところが除雪ですね。ここはきちっと行政がお金を確保してやっていくことだろうし、ひょっとしたら、これすらも民間が主体的に行政側面支援というかたちもできるかもしれませんし。

大森委員

なかなか業者がないんです、このごろ。

下川部会長

そうですね。いろいろ問題がありますし、考えていけないといけない部分です。ありがとうございます。

3. まとめ

下川部会長

今日皆さんから頂いたのを次回、また私の方でキーワードとしてまとめ直させていただきます。実は次回の部会が最終の部会でありまして、皆さんに最終確認をしていただくような、そこまで持っていっておきたいなと思っております。また次回の部会では皆さんにお力添えをいただきたいと思っております。今日はありがとうございましたというところなんですけど、事務局の方から何かあれば。

事務局（山田総合政策室長）

一番最初に申し上げましたように、今後2回目の審議会を開かせていただいて、全体のご意見やそれぞれの部会がどういうことをやっておられるか聞いた上で、また最終の専門部会でまとめていただきたいと思っています。

それと、部会長と副部会長には申し訳ないですけど、審議会の前に1度、部会同士でどういう話し合いをされて、どういう調整が必要なのかというところを調整会議をやらせていただきたいと思います。そのあたりをよろしくお願いします。

下川部会長

ありがとうございます。今日皆さんから頂戴したのは本当に、ぐぐっと第1部会が扱えるような話し合いだったかと思うんですが、私が作ってきた資料の右下の方に補足が記してあるんですけど、この補足に、第3部会とか第2部会に関わるような、そういうお話も1回目に頂いております。その調整会議ですかね。ここら辺のことについても調整していきたいと思っております。町井さんと一緒に出てこようと思うんですが、そこら辺を一任させてもらってもよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

それでは、本日の審議はこれにて終了にいたしたいと思っております。ありがとうございます。

4. 閉会

司 会

それでは事務局の方から2点、連絡等に関してお知らせいたします。まず1点目ですが、すでにご案内いたしておりますけれども、第2回目の審議会が10月26日、月曜日10時から、アオッサの6階で行われます。日程確保をよろしくお願いいたします。また、出席の方もよろしくお願いいたしますと思います。

それから、専門部会の最後の第3回目ですけれども、本日机の上に日程調整表を置かせていただいております。もし今ご記入いただけます方は記入いただきまして、机の上に置いて帰っていただきたいと思っております。今記入できない委員さんにつきましては、お帰りになって、後日で結構ですのでファクス等でご連絡いただきたいと思っております。以上2点、よろしくお願いいたします。

それでは、長時間にわたりましてどうもありがとうございました。

(以 上)

第七次福井市総合計画審議会 第2回専門部会 出席者名簿

第1部会 社会基盤分野

※委員50音順、敬称略

		氏名	備考	出欠
福井市総合計画審議会	部会長	下川 勇	福井工業大学 准教授	○
	副部会長	町井 廣	福井市自治会連合会 会長	○
	委員	大森 紀之	集落支援員	○
	委員	栗原 哲朗	公募委員	○
	委員	櫻井 英佑	地域おこし協力隊	○
	委員	高畠 美空	公募委員	○
	委員	堀川 秀樹	福井市議会	○
市	総合計画策定委員	三谷 清	都市戦略部次長	○
		倉 美幸	商工労働部次長	○
		渡辺 知幸	農林水産部次長	○
		竹内 康則	建設部次長	○
		高間 光夫	下水道部次長	○
		坂口 定之	企業局次長	○
		山田 幾雄	総合政策室長	○
	事務局	山本 誠一	総合政策室副課長	○
		塩谷 靖喜	総合政策室主任	○
		山口 秀明	総合政策室主幹	○
		落合 大輔	総合政策室主査	○
		松田 佳恵	総合政策室主査	○